

2025年第5回中京競馬特別レース名解説

<第1日>

○こうやまき賞

こうやまき（高野楨）は、マツ目コウヤマキ科の常緑針葉樹。高野山で真言宗を開いた空海は、商売につながる花や果物の栽培は修行の妨げと考え、その代わりにコウヤマキを供えたとされる。愛知県新城市にある甘泉寺のコウヤマキは国の天然記念物に指定されている。

○中京日経賞

日経は、東京と大阪に本社を置く日本経済新聞社が発行する日本経済新聞の略称。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○飛騨ステークス

飛騨（ひだ）は、旧国名のひとつで、岐阜県北部の市。周囲を3,000m級の山々に囲まれ、総面積の9割以上を森林が占める。恵まれた自然環境を生かし、ブランド牛として有名な飛騨牛をはじめ、トマトやほうれん草などの農業も盛ん。

<第2日>

○犬山特別

犬山（いぬやま）は、愛知県最北端に位置する市で、北は岐阜県と接する。1537年に織田信長の叔父・信康が築城した犬山城は、現存する日本最古の天守を有し、国宝五城の一つに数えられている。

○志摩特別

志摩（しま）は、旧国名のひとつで、三重県志摩半島南東部の市。英虞湾のリアス式海岸が特徴的で、大小さまざまな島が点在する。豊かな自然を生かした水産業や農業、観光業が基幹産業で、真珠や青海苔の養殖が盛んである。

○ジャパン・オータムインターナショナル チャンピオンズカップ（G I）

本競走は、2000年に創設された『ジャパンカップダート』を前身とする重賞競走。当初は東京競馬場のダート2100mで実施されていたが、2008年には阪神競馬場へ移設、距離も1800mに変更された。さらに、2014年より中京競馬場へ移設し、装いを新たに、国内のダートチャンピオンが集う競走として、競走名を『チャンピオンズカップ』に改称した。なお、本競走は、秋季国際G I競走シリーズ『ジャパン・オータムインターナショナル』に指定されている。

○栄特別

栄（さかえ）は、名古屋市中区の地名。また、栄交差点を中心に広がる繁華街。東海地方を代表する商業地区であり、百貨店や高級ブランド店が立ち並ぶ。中部電力MIRAI TOWER（旧名古屋テレビ塔）や中日ビルがランドマークとなっている。

<第3日>

○つわぶき賞

つわぶき（石蕗）は、キク科の多年草。東北地方以南の暖地の海辺に自生するが、日陰でも逞しく育つため、公園や庭園に植えられることも多い。葉がフキに似ており、表面に光沢があるため、艶蕗（つやぶき）からその名が付いたともいわれている。10月頃から初冬にかけて、キクのような鮮黄色の頭状花を咲かせる。花言葉は「謙讓」「愛よ甦れ」。

○鳴海特別

鳴海（なるみ）は、名古屋市緑区の地名。江戸時代には東海道40番目の宿場町として栄えた。かつて鳴海潟と呼ばれていた海岸は土砂の堆積により遠のいたが、その潮騒が聞こえたことも地名の由来とされる。

○中日新聞杯（GⅢ）

本競走は、1965年に創設された重賞競走。初年度は『中日杯』として実施され、翌年に現在の名称に改められた。当時の中京競馬場は芝コースがなかったため、砂1800mで実施されていた。1970年に芝コースが新設されたことに伴い、芝1800mで実施されるようになり、2006年からは距離が2000mに延伸されている。また、2007年までは父内国産馬限定競走として実施されていた。

中日新聞社は、愛知・東京・石川・静岡に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第4日>

○大須特別

大須（おおす）は、名古屋市中区の地名。鮮やかな朱色の建物が目を引く大須観音には、国内外から多くの観光客が訪れる。付近一帯の大須商店街は多種多様な施設や商店が軒を連ね、活況を呈している。

○一宮特別

一宮（いちのみや）は、愛知県北西部の市。濃尾平野の中央に位置し、清流と温和な気候に恵まれる。平安時代に国司が最初に訪れる神社を「一の宮」といい、尾張国の「一の宮」が真清田（ますみだ）神社であったことから、その門前町がいつしか「いちのみや」と呼ばれるようになったのが由来とされる。

○知立ステークス

知立（ちりゅう）は、愛知県中部の市。旧東海道の池鯉鮒（ちりふ）の宿として発展した。市内にある知立神社は、江戸時代に東海道三大社のひとつに数えられた名社で、日本武尊が元を作ったと言われている。また、東部の八橋は、「伊勢物語」にも詠まれたカキツバタの名勝地である。

<第5日>

○スポーツ報知杯クリスマスローズステークス

クリスマスローズ（Christmas Rose）は、キンポウゲ科クリスマスローズ属の多年草。ヨーロッパや西アジアなどが原産で約20種類が分布する。花びらに見えるものはがくが発達したもので、本来の花弁は退化しておしべに隠れている。色は桃色をおびた白色。花言葉は「追憶」「慰め」。

スポーツ報知は、報知新聞社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同紙の中部版を発行している、読売新聞中部支社より寄贈賞を受けて実施されている。

○尾頭橋ステークス

尾頭橋（おとうばし）は、愛知県名古屋市の地名。名は、約1,400年前に雷のお告げで生まれた男児の頭にヘビが巻きつき、そのヘビの尾と頭が後方に垂れ下がっていた事に由来する。

なお、同地にはJRAの場外勝馬投票券発売所であるウインズ名古屋がある。

<第6日>

○寒椿賞

寒椿（かんつばき）は、ツバキ科の常緑低木。花ごと落ちてしまう椿と異なり、花弁が一枚一枚と散っていくのが特徴。花期は12～2月で、寒い時期に紅・白・桃色の花を健気に咲かせる姿から、花言葉は「謙讓」「愛嬌」。

○名古屋日刊スポーツ杯

日刊スポーツは、日刊スポーツ新聞社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同紙の東海版を発行している、日刊スポーツ新聞西日本名古屋本社より寄贈賞を受けて実施されている。

○コールドムーンステークス

コールドムーン（Cold Moon）は、12月の満月を意味する呼び名。寒い時期に見える満月であることからその名が付けられた。

○尾張特別

尾張（おわり）は、旧国名のひとつで、現在の愛知県西部にあたる。平安時代の律令施行細則である「延喜式」によれば、尾張は上国で八郡あったと記されている。戦国時代には、織田信長、豊臣秀吉といった有名武将を輩出し、江戸時代は、御三家筆頭の尾張徳川家の所領となった。